



にしぐち よしかね
伊賀びと 西口 義金さん マジック落語ボランティア



独自の漫談マジックと創作落語をミックスさせた落語でボランティア活動をしている西口さん。落語家名は「笑々亭福麻呂」として活動していて、自治会の集まりや、敬老会、老人クラブ等の会合に引っ張りだこの状態で、落語の評判が広まり、奈良県や京都府でも活動を行っています。また市内の2小学校で4年生から6年生を対象にしたマジック教室を月に1〜2回開催しています。

西口さんは40年ほど前から趣味でマジックを始め、3年前に創作落語を取り入れたマジック落語を始めました。マジック落語を始めるきっかけになったのは、体調を崩して入院した時に、患者仲間に得意の漫談マジックを披露したところ、皆が明るい表情になっていくのを目にし「笑いは健康に良い」と確信し、マジックに落語を取り入れることにしました。落語の寄席やCDなどで研究を重ね、日常のエピソードなどを題材に、落語中の登場人物にマジックをさせる手法をとっています。

「高齢者が家庭での引きこもり防止と笑いで健康に！」をスローガンにしている、「体力の続くかぎり、笑いとマジックを通じて社会奉仕活動が続けていきます。私は“ネタ”作りに頭も使うし、体も動かすので元気です」と明るい声で語ってくれました。

問い合わせは西口さん(0595-23-4599)まで。

伊賀びと衆 「いがスマイル彩」 健康推進サークル

平成16年11月に伊賀市シルバー人材センター互助会のサークルとして誕生した“健康推進サークル”です。設立の目的は、高齢者がイキイキと楽しく民踊、ダンス、健康体操、歌、その他頭脳と体力の向上につながる健康的な活動を通じて、会員相互の親睦を図ると共に、地域福祉に貢献することです。

毎月2回の例会は、それぞれが日常生活の中で感じている心身の減退に伴う不安を和らげ、活性化させてくれるリハビリ効果と、信頼できる会員同志の深い絆が、和みと潤いになっている。

現在の会員数は16名で、地域福祉に役立つボランティアサークルとして、上手く出来なくても訪問先の方々に楽しんでいただけることを、無理せず、参加出来る会員が自から喜びを感じて活動している。声をかけていただいたら皆で協議し、各々が得意分野を担当して、大型紙芝居・踊り・歌・ダンス・手品・健康体操で、笑顔と思いやりあふれる愉快的なサークルとして出かけています。グループ代表の藤森さんは「多くの方々との出会いが、人生のスパイス的な彩りとなるよう、やさしさに満ちたチームワークで交流している一つの家族だと実感していて、年齢相応の活動を長く続けていきたいと思っています」と笑顔で想いを語ってくれました。



伊賀び〜と紙面相乗りコーナー



桐ヶ丘子どもサポートセンター



「桐ヶ丘子どもサポートセンター」って何?

という事で、分野を分けて、ごあんないやニュースレターとして、発信させていただきます。よろしくお願致します。

～桐ヶ丘子どもサポートセンターでは、二つの事業の取り組みをしています～

◇放課後子ども教室事業◇

青山小学校校区で、平成23年4月からスタートした放課後子ども教室。「地域の子どもたちは、地域の大人が見守り、育てていく」という思いで安全サポート一さんと共に、週3回放課後の時間を過ごしています。世代間交流は、大人も子どもも関わる中で、大切な事を学び合いながら成長できる大切な取り組みです。

『青山第2放課後子ども教室～はじっこクラブ』

平成24年度より、1年生～6年生が対象です。

【開放日】月・水・金 14時～18時

【場所】桐ヶ丘地域内 アミティー大ホール

※登録が必要です。教材活動費 月1000円

お問い合わせ・登録は、事務局までご連絡ください。



はじっこクラブの
アミティー大ホール
サンちゃん
オーくん

◇さわやかふれあいステーション事業◇

赤ちゃんからお年寄りまで、みんなが安心して暮らせるまちづくり・地域づくりの取り組みに繋げる活動をしています。ふれあい・生きがい・たすけあいの中で地域で共に支え合う環境づくりを目的としています。

《主な活動内容》

- ・ふれあいの居場所づくりの普及活動
- ・時間通貨・地域通貨の取り組み
- ・東日本大震災における復興支援活動

※事業に対するお問い合わせは、事業担当 國廣まで

【連絡先】 携帯 080-5295-9932

E-mail k.mayumi4sakura@gmail.com

【事務局】 桐ヶ丘子どもサポートセンター

〒518-0225 伊賀市桐ヶ丘 2-87

Tel 0595-52-2312 (代表・立田)

平成23年度 依存症に関する講演会

平成24年2月8日(水)

14:00～16:30

三重県人権センター3F大セミナー室

(三重県津市一身田大古曾693-1)

講師

精神科医

西村直之氏

特定非営利活動法人リカバリーサポート・ネットワーク 代表

三重県こころの健康センターと特定非営利活動法人三重グルクでは薬物相談ネットワーク整備事業の一部を協働しており、依存症の理解を深める講演会を行っております。

今回は神奈川より西村直之氏をお呼びして講演会を開催致します。講師が代表するリカバリーサポート・ネットワークはパチンコ・パチスロの遊技に関する依存及び依存関連問題解決の支援を目的に設立された非営利の相談機関です。

「依存症って何？」

誰もが何かに依存(支えに)しながら生きています。依存しているものがあるからこそ頑張ろうとするものの、バランスが難しい依存の問題。例えば眠れなくて、睡眠をコントロールしようとして眠剤の服用をはじめたはずが、眠剤を飲まずにはいられなくなる。気分転換のはずのパチンコやアルコール、買い物などがやめられなくなるなどの、コントロールすることが難しくなってくる依存の問題。悩んでいる方も少なくないと思います。薬物・ギャンブル・アルコールなどの依存症に至る背景と対処法と一緒に学びましょう。たくさんの方々のご参加をお待ちしております。

お問い合わせ先

- 三重県こころの健康センター 担当: 江場
- 三重県津市桜橋3丁目446-34 Tel 059-223-5243
- 特定非営利活動法人 三重グルク 担当: 藤谷
- 三重県津市丸の内1-16 Tel/Fax 059-222-7510

依存症 addiction って何?

お酒 恋愛 薬 買い物 仕事 ギャンブル

NPO
法人

伊賀の友だより

★友生文化祭に作品を出展しました。



昨年11月に今年も日頃のデイサービスでの作品(ちぎり絵・ちりめん作品など)を出展しました。

前回掲載した冬の朝顔は残念ながら紅白歌合戦の後、除夜の音を聞く前に息絶えました。来年もう一度挑戦するぞ！

.....

特定非営利活動法人「伊賀の友」

伊賀市下友生2367

火曜～土曜 9:00～16:00 電話 0595(21)1833

こどもも むかしこどもも たのしもう

かみしばいのせかい

と き: 2012年2月26日(日曜日)
 ころ 1じ30ふん～3じ

ばしょ: 名張市立図書館 2階視聴覚室

住所: 名張市桜ヶ丘 3088-156 電: 0595-63-3260

*参加無料

ゆいの里通信

高齢者・障がい者お買物無料送迎バス運行スタート！

地域支え合い体制づくり事業の許可を得て、かねてから協議を行ってきた「高齢者・障がい者お買物無料送迎バス」の運行が、11月11日よりスタートしました。

これから平成24年3月末までの期間、提携する「マックスバリュ佐那具店」と「ジップドラッグ東洋阿山店」へ、各地域の一人暮らし高齢者、高齢者世帯等を主として運行していきます。

オープニング当日は、各福祉関係者、団体等にご参加いただき、この事業を協議してきた経緯の報告、また、ゆいの里がこれから目指していくべき方向性などをお伝えし、利用者を迎えてテープカットなどオープニングセレモニーを行い、モデル事業として始動していきます。

現在登録されている利用者は213名(11月28日現在)で、月曜日～金曜日の午前2便、午後2便で運行され、1週間に1回程度、グループ

で指定された日に無料送迎にてスーパーに行き、1時間程度のお買物を楽しんでいただく仕組みとなっております。地域の顔見知りの方と一緒にお買物をすることにより、外出の機会が増えること、バスの車内やお買物の後で利用者同士が会話したり、お互いが支え合いながらお買物をすることでふれあい・いきいきサロンの効果も望めます。できるだけ快適に

NPO法人「ゆいの里」

〒519-1402 伊賀市柘植町7178番地の1

理事長 藤井 明和

TEL080-8252-3580

お買物、運行を行えるよう、利用者をご支援いただけるお買物メイト(お買物や送迎時の乗降を支援する者)を募集することなど課題もたくさんありますが、モデル事業の期間以降も、継続して運行ができるように、提携業者、各種関係団体との協議、理解を求めていきながら、事業を推進していきたいと考えています。



すべての人が共に支え合って暮らしていくことのできる社会をめざして・・・活動しています。

NPO 法人ユニバーサルデザイン同夢 (どうむ)

だれもがわかりやすいユニバーサルデザイン-8



カラーユニバーサルデザイン

遺伝子のタイプの違いやさまざまな目の疾患によって色の見え方が一般の人と異なる人が、合計すると日本に500万人以上存在します。

こうした多様な色覚を持つさまざまな人に配慮して、なるべく全ての人に情報がきちんと伝わるように利用者側の視点に立ってつくられたデザインをいいます。

(特定非営利活動法人カラーユニバーサルデザイン機構)

無意識のうちに・・・
色に頼って
判断してしまっている

どちらのトイレにはいますか？
トイレの表示が・・・

♂ (青色) (赤色) ♀



色の見え方はみんな同じではありません。大切なことは、
・色に頼らないデザイン ・見やすい配色 ・色名を明記

URL : <http://www.doumu.net> Email son@doumu.net TEL&FAX 0595-23-9513



美し国おこし・三重通信

『地域づくり交流会・いが』参加者募集

「美し国おこし・三重」拡大座談会は、地域の取り組みを推進し、市町域を越えた連携・交流のきっかけづくりを目的としています。今回、「美し国おこし・三重」に参画されている「種生区活性化計画推進委員会」との共催により、伊賀地域の地域づくりにかかわる団体・グループ、地域づくりに関心のある方々の意見交換、連携の機会として下記の通り開催します。ぜひ、御参加ください。

【日時】平成24年3月18日(日) 13:30~16:30(開場 13:00)

【会場】青山ハーモニー・フォレスト 学習室 三重県伊賀市種生3137-1

【内容】

講演 「人がつながるしくみをつくる」(仮題) studio-L 醍醐 孝典 氏

* 醍醐 孝典さんが所属されています『studio-L』(代表 山崎 亮 氏)は、地域の課題を地域に住む人たちが解決する「コミュニティデザイン」という手法を使い、地域を持続可能な発展に導いています。主な仕事に、兵庫県立有馬富士公園運営計画、ユニセフパークプロジェクト、いえしま地域まちづくり、海土町総合振興計画、土祭(ひじさい)コミュニティデザイン、マルヤガーデンズコミュニティデザインなどがあります。代表の山崎氏は、「コミュニティデザイン」の第一人者として、情熱大陸(TBS系)、クローズアップ現代(NHK)で取り上げられています。

活動報告 種生区活性化計画推進委員会の活動について

交流会 意見交換

【定員】50名(定員になり次第締め切ります。)

【申込締切日】平成24年3月12日(月)

地域づくりに関心をお持ちの方は、「美し国おこし・三重」実行委員会へお問い合わせください。

「美し国おこし・三重」実行委員会 伊賀地域事務所 (三重県政策部「美し国おこし・三重」推進室伊賀駐在)

〒518-8533 伊賀市四十九町2802 県伊賀庁舎 伊賀県民センター内 担当:清水 上田

電話:0595(24)8006 E-mail: gumashi@pref.mie.jp

URL <http://www.pref.mie.lg.jp/UMASHI/HP/>



かわら版 みどりの絆 Green bonds

No.42 (12/2)

特定非営利活動法人 みどりの絆

ぐリーんぼんず

Since2007/08/01

若者のまちづくりへの参画について⑤

名張市議会女性議員と三重県立名張高校女子高生が懇談

名張市は女性議員が6人おられ、全体の30%と全国でも比率が高い市であります。また、「名張市男女共同参画都市宣言」を平成16年6月22日議決しています。そのような中で、今回の企画を提案しコーディネートさせていただきました。

恋愛、就職、社会人としての不安などを議員さんに聞いていました。その一つ一つに丁寧に議員さんたちは答えてくださいました。生徒さんたちは、議員さんを身近な人として感じてくれるようになったことと思います。みどりの絆は、このように地域の課題ひとつひとつ丁寧に取り組んでいます



みどりの絆ホームページ リニューアルしました

「名張子ども支援ネットワーク会議」「伊賀名張ぶろぼの倶楽部」
詳しくはみどりの絆事務局までメールにて問い合わせください

事務局 〒518-0753 三重県名張市蔵持町里 2405-3 Fax 0595-48-6160

Mail wish-care@krc.biglobe.ne.jp ホームページ <http://www.m-kizuna.com>

動けば変わる

～みんな一歩踏み出そう～

人と自然のチカラで地域は生まれ変わる

三重県 避難支援団体ミーティングのご案内

日時 平成24年2月12日

15:00～17:00

場所 愛農学園高等学校同窓会館

参加申し込み及び問い合わせ先

國廣真夕美 080-5259-9932

〔呼びかけ人〕

なないろの空・サーカスプロジェクト・桐ヶ丘子どもサポートセンター

詳しくはみどりの絆HPに掲載しています

エアーブランツ「私のお気に入り」

はお休みさせていただきます

三重県上野森林公園 3月の行事予定

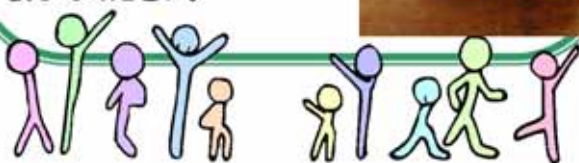
こども森林くらぶ5 「おひなさまを作ろう」

日時…平成24年3月3日(土) 9:30～12:00
募集人数…20組程度(4歳以上の子供とその保護者、
先着順、但しこども森林くらぶ会員は優先します。)

募集期間…2月3日(金)～2月24日(金)

講師…松永 伸 先生(日本画家)

今年度のこども森林くらぶ最終回は、森の材料も使っておひなさまを作ります。ひもの結び方、木の枝を組み合わせたら丈夫なものができることなど、シンプルな作業の中に生きる知恵がたくさんつまっています。この機会に是非体験してください。



行事申し込み方法

電子メール、FAXまたは往復はがきでお願いします。公園のビジターコテージ窓口でも直接お申し込みいただけます。参加者全員の住所、氏名、年齢、電話・FAX番号、参加希望の行事名をご記入のうえ、各行事の受付期間内に下記までお申し込み下さい。往復はがきでお申し込みの場合は、締切り日必着。返信面のご記入もお忘れなく。メールで申込後、受付の返信が届かない場合は、すぐに公園までお問い合わせ下さい。

伊賀森林組合 三重県上野森林公園

〒518-0817 伊賀市下友生字松ヶ谷1番地

TEL 0595-22-2150

FAX 0595-22-2151

メール muenofp@e-net.or.jp

水と緑のたより

ハツ場ダム建設再開に反対です

政府は昨年度末にハツ場ダム建設再開を決めていました。そのことへの反対表明です。

全国から110の団体が反対表明し、「伊賀・水と緑の会」もその中に加わりました。

1月17日には霞ヶ関において抗議のデモがあり、国土交通省まで行進しその後緊急集会在開されました。

緊急声明文を国土交通大臣に手渡すこともできました。

デモ行進には150人、集会では300人に膨れ上がったことが新聞報道されております。

●霞ヶ関に110団体 「ダムより震災復興」 http://mytown.asahi.com/gunma/news.php?k_id=10000581201180001 2012年01月18日 朝日新聞

●ハツ場ダム建設再開 都内で抗議集会 反対派、全国から結集 <http://www.tokyo-np.co.jp/article/gunma/20120118/CK2012011802000100.html> (2012年1月18日) 東京新聞

たったの2週間という短い準備でこのような抗議行動がおこるなんて、誰が想像したでしょう。

不要不急のダムを3、11後のこの時期に何故急いで造るのか説明が欲しい。

見直しダムを検討する有識者会議のメンバーはダム容認者ばかりです。せめて中立な人を入れて話し合ってください。

こんなに当たり前すぎる事が、ダム行政ではなかなか通用しない現実が今もまだあります。

わたしたちはハツ場ダムが止まらなければ川上ダムも造られてしまうと思っています。

NPO法人 伊賀・水と緑の会 事務局

電話 0595(52)1721

メール mtom_iga@hotmail.co.jp

ブログ<http://blog.goo.ne.jp/mtomiga>

名張市ボランティア連絡協議会

ハート&ハートコンサート・みんなトモダチ

【日時】平成24年2月26日(日) 開場 9:30

一部「みんなで音楽を楽しもう」10:00~12:00

名張市新しい公委託事業「障害者理解を深めるための啓発事業」

二部「寺尾仁志&human noteコンサート」13:00~15:00

【会場】名張市総合福祉センタふれあい・ふれあいホール

【参加費】入場無料 但し整理券必要(名張市ボランティアセンターにて1月24日より配布)

【定員】100名(定員になり次第締め切らせていただきます)

【主催】名張市ボランティア連絡協議会

【問い合わせ】0595(63)1111



いが移動送迎連絡会

新たな年を迎えて、皆さんいかがお過ごしでしょうか？

今回のいが移動送迎連絡会は、新年会をしながら様々な情報交換を楽しく行いました♪

今年は参加者の皆さんと一緒にスキルアップを目指して活動をより充実していきたいと思ひます。

そして、これからも未来ある伊賀市を夢見て、皆さんと検討をしていきますので、一人でも多くのご参加をお待ちしています！

本年も宜しくお願い致します！

【今後のいが移動送迎連絡会のご案内】

【日時】2月9日(木) 19:00~

【会場】上野ふれあいプラザ4階講座室

【問い合わせ先】

伊賀市社会福祉協議会 電話 0595(21)5866



伊賀線駅舎だより

昨年12月11日日曜日

の北風の唸る中、

新居駅の駅への柵の

ペン塗りをしました。半

日かけてさび落としし

て一度塗りして頂きま

した。ペンキ塗りはさ

び落としが大変で、ほとんどの時間をさび落としや古い

ペンキ落としに時間を使ひます。地道な根気のいる作業

ですが、寒さに震えながら参加者全員が頑張ってください

ました。午後からは、二人で仕上げの二度塗り。バッチリ

綺麗な白に仕上がりました(*^_^*)新居駅を通過、ご利用

の際にご覧になってみてくださいね。

《定例作業日》

【日時】2月26日(日)9:00~(雨天中止)

【場所】伊賀鉄道 西大手駅

【内容】草引き・花壇の手入れ。春に向けた花苗を植えて

いきます。花苗の提供もありがたいです。作業のできる服

装でイショクゴテ・クワ・鎌・軍手・水分などを各自で用意

してご参加ください。

駅舎修繕・美化ための費用を引きつづき募金協力を

募っています。合わせて『伊賀産忍者ストラップ』を販売し

修繕費用に充てます。忍者ストラップは伊賀の組みひもを

使い手作りしたものです。桔梗屋織居・服部文具店にて販

売しておりますので、ご協力くださいませm(_)_m

《振込先》

ゆうちょ銀行

イガテツドウノエキシャヲカンガエルカイ

【記号】12270 【番号】26985811

他金融機関からの振込の受取口座として利用のときは

【店名】二二八(読み 二二ハチ)【店番】228

【預金種目】普通預金【口座番号】2698581

《問い合わせ先》 伊賀鉄道の駅舎を考える会 服部

Mail miss.sangen@auone.jp



市民ふくし
大学講座

公開講座

災害 ボランティア コーディネーター 養成講座

Disaster volunteer
coordinator
training course

申込
不要

大規模災害を乗り越えるための 地域防災活動と 災害ボランティアセンターの連携



NOBUYUKI KURITA

平成24年 **2月25日(土)**

13:30~16:00

あやま文化センターさんさんホール

(伊賀市川合 3370-29)

※磁気誘導ループを設置します。

◆プログラム◆

13:30~ ◇地域防災活動報告

報告者/治田防災支援隊・白樫福祉防災ボランティア

14:40~ ◇特別公開講演会

演題/「大規模災害を乗り越えるための地域防災活動と
災害ボランティアセンターの連携」

講師/レスキューストックヤード代表理事 栗田暢之さん

◆栗田 暢之(くりた・のぶゆき) プロフィール

1964年10月22日生まれ、岐阜県瑞穂市(旧穂積町)出身、名古屋市中川区在住。

1987年4月より2001年8月まで学校法人同朋学園事務職員。1995年の阪神・淡路大震災時には同朋大学生ら延べ1,432名のコーディネーターとして被災者支援にあたった。同年7月に地元愛知県から継続した支援を行うほか、KOBEの教訓を今後の緊急時に生かすことなどを目的としたボラン

ティア団体「震災から学ぶボランティアネットの会」が設立され、事務局長に就任。2002年3月に同会を発展的に解消して「特定非営利活動法人レスキューストックヤード」が認証され、同法人の常務理事兼事務局長を経て現在に至る。2000年9月の東海豪雨水害時には愛知県庁内に設置された「愛知・名古屋水害ボランティア本部」の本部長を務めた。

●主催/伊賀市社会福祉協議会 ●後援/三重県・伊賀市 ●協力/みえ防災市民会議・みえ防災コーディネーター・伊賀の伝丸・柘植地域まちづくり協議会・伊賀県民センター・伊賀市総合危機管理室・伊賀市市民活動支援センター

●お問い合わせ先● 伊賀市社会福祉協議会 上野ふれあいプラザ3階 ☎0595-21-5866

◇この講習会は、市民ふくし大学講座 基礎講座です。
専門講座を終了すると、いが見守り支援員として認定されます。

基礎講座

+

専門講座

いが見守り
支援員

いが見守り支援員 基礎講座

(伊賀市「生活・介護支援サポーター養成事業」委託事業)

どなたでも受講いただけます。
見守り支援員になるためには、
専門講座(20時間程度)の
受講が必要です。

支えあいの 地域づくり

いつでも人に会え、
話ができる居場所づくりから、
地域やご近所に助けられ
広がる支え合いの輪へ

ひとりでいるのがさびしい、誰かとお茶が飲みたい、
誰かと一緒に食事がしたい・・・

新潟市東区にある、全国に3万カ所あるといわれるコ
ミュニティカフェの先駆けである、常設型地域の茶の間「う
ちの実家」。特別のプログラムはなく、参加者は16畳程
度の和室でおしゃべり、縫い物、囲碁、昼寝など思い思い
の時間を過ごす。

車椅子の人、認知症の人、目や耳が不自由な人、小さい
子からお年寄りまで、お互い様の関係の中で、一緒に時間
を過ごすことで、相手の不自由を知り、いつの間にか自然
に助け合うようになっている。



講師 常設型地域の茶の間 かわたけいこ
「うちの実家」代表 **河田 珪子さん**



昭和19年新潟県新発田市生まれ。
月1回の地域の茶の間から、空き家を
借りて常設型に移行。人のつながりを
通して、住み慣れた地域・自宅で暮ら
しつづけるための仕組みづくりを開始。
有償による助け合い活動の立ち上げな
どを行っている。

平成24年 **3月22日(木) 13:30~16:00**

伊賀市文化会館 さまざまホール ※磁気誘導ループを準備しています。

13:30~ ◇市民ふくし大学講座見守り支援員ガイダンス

14:10~ ◇講演「支えあいの地域づくり」

講師/常設型地域の茶の間「うちの実家」代表 河田 珪子さん

参加費無料
事前申込不要

うちの実家

はこんなところです。

人と人、
人と社会と
つながることで、
生涯現役の
場づくり

あたたかく
無条件で
迎え入れられ、
人のあたたかさを
伝えていくところ

うちの実家は
会員制です

愛を根っこにして
困ったら
助けたり
助けられたり
するところ

開設時間 *土曜日を除く平日の毎日と第3日曜日
午前10時~午後3時

参加費 *300円 (うち250円は家賃協力費、食事代は別途300円)

宿泊 *夕方6時~翌朝9時 1泊2,000円(寝具洗濯代)

手作り茶の間 *手作り好きな人たちのサークル活動

夜の茶の間 *情報交換とネットワークづくりの場

伊賀市社協メンバーも
おじゃましました★



2010.5

伊賀市市民活動支援センター

平成24年度地域活動支援事業の対象事業を募集します!

伊賀市の将来像と目標である「ひとが輝く 地域が輝く」自立と共生のまちの実現のため、自治基本条例に基づき市民の自主的なまちづくり活動を支援し、個性的で魅力あふれる地域づくりの推進をする活動、市民の公益的な活動や課題研究に、市がその経費の一部を補助する制度です。



補助対象事業 ◎ 住民自治協議会活動支援(地域まちづくり計画に基づく新たな事業、拡充する事業)
◎ 市民公益活動支援(市民公益活動及び課題研究)



募集期間平成24年2月1日(水)～29日(水) 17時まで ※郵送の場合は2月29日必着
申請用紙並びに募集要項は、市民活動推進室・各支所住民福祉課・市民活動支援センターにあります。
ホームページからもダウンロードできます。URL:<http://www.city.iga.lg.jp/>
応募先は、市民活動推進室、各支所住民福祉課、市民活動支援センターです。

再生パソコンの寄贈団体を募集します!

「パソコンがあれば活動が広がるのに・・・」というNPO・市民活動団体みなさまに、再生パソコンを寄贈するプログラムを NPO 法人イーパーツ各市民活動(支援)センター等が連携して実施します。応募要項・申請書は、市民活動支援センターと特定非営利活動法人アイ・コラボレーション伊賀にあります。

公募期間 平成24年2月1日(水)～平成24年2月29日(水)

* 詳細は、下記へお問合せください。

【問い合わせ先】

伊賀市市民活動支援センター

〒518-0131 伊賀市ゆめが丘 1-1-4 ゆめほりすセンター内

TEL:0595-22-1511(代表) FAX:0595-22-0317 E-mail: igasksc@ict.ne.jp

特定非営利活動法人アイ・コラボレーション伊賀

〒518-0816 伊賀市中友生 1240 番地 西條ビル 1F

TEL:0595(48)6061 FAX:0595(48)6062 E-mail: iga@i-collabo.com



〒518-0131 伊賀市ゆめが丘 1-1-4 ゆめほりすセンター内

TEL:0595-22-1511(代表) FAX:0595-22-0317 E-mail: igasksc@ict.ne.jp

ホームページ: <http://www.city.iga.lg.jp> ブログアドレス <http://blog.canpan.info/igasksc/>

支援センター休館日: 年末年始(臨時休館あり) 開館時間: 午前9時から午後10時まで
(ただし、開館日の午後5時以降の夜間利用は、2日前までの事前申込が必要です。)

地域福祉計画 ニュースレター

VOL.66

「伊賀び〜と」をご覧の皆様、こんにちは。

「福祉でまちづくり部会」発で開催中の情報交換会には毎回たくさんのご参加をいただき、地域の取り組みに熱心に耳を傾け、意見交換が展開されています。テーマ別部会でも随時メンバーを募集しております。みなさまの参加をお待ちしております。
<12～1月の報告>



▲1/16福祉でまちづくり部会

開催日	部会名	開催場所・時間	内容
12/12(月)	福祉でまちづくり部会 (情報交換会)	ゆめほりすセンター2階 東会議室 10:00～	●地域支え合い体制づくり事業取り組み報告会① ●質疑応答、意見交換 参加者30名
H24年 1/16(月)	福祉でまちづくり部会 (情報交換会)	ゆめほりすセンター2階 東会議室 10:00～	●地域支え合い体制づくり事業取り組み報告会② ●質疑応答、意見交換 参加者60名
1/13(金)	安心生活部会	伊賀市役所 本庁北庁舎 第32会議室10:00～	●進行管理庁諸について●地域支援ネットワークの構築に向けて(事例提供)など
1/17(火)	高参加・高福祉部会	伊賀市役所 本庁北庁舎 第33会議室10:00～	●進行管理調書について●福祉教育の現状を共有し、検証する●意見交換 など

<今後の開催予定>

開催日	部会・審議会名	開催場所・時間	内容
2/15(火)	第3回地域福祉計画 推進委員会	伊賀市役所 本庁北庁舎 第11会議室 19:00～	●H23年度の進行管理について●計画の推進状況報告など
2/20(月)	福祉でまちづくり部会 (情報交換会)	ゆめほりすセンター2階 10:00～	●地域支え合い体制づくり事業取り組み報告会③ ●質疑応答、意見交換
2/28(火)	高参加・高福祉部会	伊賀市役所 本庁北庁舎 第33会議室10:00～	●学びの場の現状●「福祉教育の実践」についてのワーク●意見交換
3/16(金)	安心生活部会	伊賀市役所 本庁北庁舎 第32会議室10:00～	●地域支援ネットワークの構築に向けて●視察研修報告、意見交換
3/19(月)	福祉でまちづくり部会 (情報交換会)	ゆめほりすセンター2階 10:00～	●地域支え合い体制づくり事業取り組み報告会④ ●質疑応答、意見交換

【問い合わせ先】伊賀市健康福祉部 介護高齢福祉課 電話0595-26-3940 / 伊賀市社会福祉協議会 電話0595-21-5866

コラム & コラム & コラム

女性と子どものためのコラム“mayu” 「永すぎた春」



女性と子どものヘルプライン・MIE (mayu)

永過ぎた春って、恋愛だけでなく、親子関係でもあると、最近思うことが多くなった。人生を四季に喩え、春は生まれたての初々しい季節。暖かい日差しのように自分を取り巻く親や親せき、家族などが皆・優しく世話を焼いてくれる。自分の周りの皆が皆・すべての人は、自分が健やかに成長することを喜び、そのために何でもしてくれる・と疑いもなく信じられる幸せな季節。

その春はしかし長くは続かないのが、世の常。早い人では幼稚園や小学校へ行く頃には、すでにすべての人が自分に好意を持ってきているわけではないと、気が付く。特に長子ではなく、下の子どもの場合、親の対応が悪いと、家族と言えすべての人が・自分の成長を喜んでいないということに、非常に早い段階で、気が付いてしまう場合もある。「春」の季節からスタートできないということで問題ではあるが・。幼い時の「春の季節」はとても重要で、宝石のように貴重。だからこそ・壊れやすく・溶けやすく春の淡雪のように美しく懐かしく儂い。

春の季節は、壊れやすく淡雪のように溶けやすく儂いからこそ・良いとも言える。「すべての人が、喜んで自分に何でもしてくれる」「しかも何の見返りも求めず・」と言う非常に虫の良いことは、そうそう・続かない。お乳も1人で飲めず、おむつも1人で替えられず・もちろん着替えも1人で出来ず、1枚の紙が落ちてきても、振り放すことも出来ない乳児のときは、何でも喜んでしてくれる人が、必要だった。その時代は、本当に短い。

乳児は、1年で幼児になる。幼児は結構たくましい。幼児になれば、保護者は少しずつ少しずつ・世話の手を放していく必要が出てくる。乳児のときは、保護者は何でもしてあげたが、1年経って、幼児になると、だんだん大人の手を放していく。それが子育ての一番大事なこと。

長い時間掛かって春から、自分で何でもする暑い「夏」の時代になる。個人差は大いにあるが、15年の春を経てのこと。15年間の「春」を、春として過ごすとは、いよいよ夏がやってくる。春を春らしく過ごすとは、子ども時代を子どもらしく過ごす。と言うことと同意語である。15年間しっかり春を、親子で味合う。そうすると・ズムーズに子どもは親から離れ、親は子から離れられる。これが親離れ・子離れの季節。季節は春の時を過ぎて、夏の季節になってくる。

夏の時になっても、何時までも親子で引っ付いていると、暑苦しい。夏は暑いので、親子が密着していると、暑苦しくなってくる。子どもは親に反抗的になる。親は親で口うるさい親に変わり果て、春の時のような「麗しい親子」の姿は影をひそめる。この時期に親子はクールに離れる。親子が離れる「夏」が来ることで、「春」の季節は終わる。その時期は、実際とても早い。

女性と子どものヘルプライン・MIE dvhelplinemietsutsumi@ymail.plala.or.jp

Kisukeの映画談義 「柘植の飛猿」

本年もどうぞよろしくお願いいたします。さて、2012年は時代劇の話題から始めようと思います。みなさんは、時代劇というと何を連想するでしょう？ここは人それぞれ、好みが大きく分かれるところですが、月曜日夜8時から放送されていたテレビ時代劇「水戸黄門」が名実ともに代名詞ではないでしょうか。黄門様こと水戸光圀とその仲間達が全国漫遊し、行く先々での様々な出会いや事件、そして定番の印籠で事態を決し、また旅に出るお茶の間テレビ時代劇にふさわしい勧善懲悪の物語です。1969年から2011年まで実に延べ42年間、全43部の他に類を見ない大長編シリーズでした。今もなお昨年でのシリーズ終了を惜しむ声が多数寄せられるそうです。

その42年のシリーズにおいて、計5人の名優達がそれぞれの水戸黄門を演じてきました。その仲間達も実に多彩な顔ぶれですが、中に「柘植の飛猿」という忍者が登場します。大柄な身体で格闘術を駆使して悪者を圧倒する姿を印象的に覚えている方も多いと思います。「柘植」・・・ということは、彼は伊賀流忍者なののでしょうか？ちょっと気になったので調べてみました。実在の人物である水戸光圀やモデルが存在する助さん・格さんと異なり、柘植の飛猿は架空の人物なのです。劇中で鳥羽藩が危機に瀕するエピソードがあり、かつて伊賀の藤林一門が滅び、鳥羽領に移り住んだ自分の一族を領民同然に面倒をみた城代家老本多左京の恩に報いるために、水戸黄門一行を陰ながらサポート、事件解決後に一行に加わるという設定があるのです。すなわち、柘植の飛猿は伊賀流忍者なのです。ちなみに、同じく忍者で入浴シーンが有名？な「かげろうお銀」も同じ藤林一門であり、当初は水戸光圀の暗殺を狙う敵だったのですが、祖父の藤林無門に一喝されたことで改心し、仲間に加わるという設定があります。つまり、お銀も伊賀流忍者なのです。

面白いのは、真田十勇士のひとりである猿飛佐助との関わりです。佐助自身は甲賀流忍者ですが、架空の人物です。しかし、そのモデルは上月佐助という忍者であるという説があり、その上月佐助の別名が、伊賀下忍・下柘植ノ木猿なのです。下柘植ノ木猿・・・柘植の飛猿を連想させる名ですね。とすると、柘植の飛猿は猿飛佐助なのではないでしょうか！？色々な連想が広がります。時代劇に登場する人物、特に架空の人物でも名前に地名を有する人物に触れると、地域との関連が見えてきます。これも時代劇特有の楽しみ方かも知れませんね。(伊賀映像文化推進委員会 木村 直史)



延長線上の西三重と宇陀

たまに名張に出かけ際に「伊賀び〜と」を拝見しています。読み応えある記事や情報を見つけては実にもったいないなあという印象を持ち続けています。私の住む宇陀地域にはこの種媒体がなく、近年ますます地域間交流がいわれ名張、伊賀と宇陀の情報交換の必然性に目を向けてほしいと願っています。国道165号で結ばれる宇陀と名張、そして名阪国道をはさむ伊賀は県こそ違え、日常生活圏のライン上です。伊賀や名張も、中京より大阪都市圏との係わりがやや強いのではないのでしょうか。

伊賀市では今、新庁舎の建設等が関心事で市及び市議会の基本条例に基づく報告会の開催も話題になり、宇陀市では合併6年目へ市の一体化が待たれています。

宇陀にすれば、伊賀は先進例で市一本化の道筋を探るのに伊賀の「昨日・今日・明日」は大いに参考になるはずで。

伊賀、名張の両市は歴史的な経緯もあり、名張が市制存続の中に課題の克服も取り沙汰されています。

三重県伊賀、名張両市と奈良県宇陀市は周辺を含め、西三重と宇陀の広域ブロック圏という視点もあり得ると考えています。

少し前ですが、宇陀では市長・市議のダブル選があり、直後の名張市長選も現新対決に揺れ、やや置いての伊賀市長選も、それぞれ地元では話題になりました。

共通の生活圏で結ばれるといわれる一方、名張・伊賀と宇陀は三重、奈良県版に分断され選挙報道等は一切ありませんでした。

そんなことは小さいことといわれるかもしれませんが、少なからず影響力を持つメディアとしては大震災関連の名張活断層や川上ダム計画などに限らず、県境の関心事にも気配りを、そして本欄でもと考えるのは独りよがりでしょうか。

(宇陀市民有志・一人NPOうだ)

玉泉の思ひ出アルバム

いつも写真撮らせていただき有難うございます。年末に忙しいから初日の2日にうたおう会に出席させていただきました。大勢の人で私の判断でおよそ300人ぐらいは来ているとおもいます。皆さんの生きあふれる姿で自然と元気が出てきました。年末の26日・27日どちらかに骨折して暫くは皆さんのお元気なお顔を拝見できないと思うと寂しくなりました。



腰の圧迫骨折は2005年に入院して背中が2007年に骨折して後遺症が残っていました。普段から写真撮影のために方々に出かけていたが別に何の支障もなく安心していました。でも普通に歩くのが良いのですが「ヒネル・曲げる」体操は危険で、私の不注意から現在の状況になったのです。後遺症が残っているのに気が付かず判断力がなく愚かでした。普段から慎重に考えて行動をすべきだと反省しています。薬は嫌いで貰ったら飲まない今回・痛み止めは仕方なく飲んだが副作用で困り痛みが少し和らいでから飲むのを止めました。すると副作用で他の所の痛みが急に治まり楽しくなりました。皆さんも副作用に気をつけてください。

体が動けなく指先を動かして未熟ながら、パソコンに慰められています。必ず覚えなければと思う思いが強かったため今、パソコンに助けられてホームページで探し懐かしの「メロディー」を歌ったり「イヤホンで目を瞑ってきいています。皆さんは私のような軽はずみな事は、しないとしますが気を付けて行動してください。今は痛みも和らぎ快方に向かっています。大変ご心配をかけました。今後とも宜しくお願いいたします。

姫の楽しみ日記ブログ <http://africanmarigold.blog84.fc2.com/>

室地聡の一刀両断世相“斬り”(七十五)「“お頭”の働きをどんどんよくする法(1)」

私は今、東大教授、理学博士、石浦章一氏の「40歳から『衰えない脳』をつくる 7つの習慣」という本を手に入れている。▼その内容の一部を紹介すると「神経細胞は5〜6歳までにつくられると、その後は殆ど増えない。」「一般に神経細胞の老化が始まるのは40歳代。」「これを過ぎると神経細胞は徐々に死んでいく。」「40歳以降の神経細胞の減少は老化によるもの」だから「避けられない。」「加齢による神経細胞の減少は10年間で5%程度(1日約135万個、1年で5億個、10年で50億個減少)」。」「年を取るに従って新しいことを覚える脳力が低下していくことは確か。」「年を取るに従っていろいろデータから大切なものを抽出して、新しいものを作り出すクリエイティブな脳力は落ちてく



るが「これは仕方のないこと」などとお書きになっていらっしゃる(p18~p19)。▼笑っちゃうのは「1990年代に、よく運動させたマウスの脳を解剖してみると、海馬に多くの神経細胞が新しく出来ている(神経再生)ことが発見されて話題になった、だから大いに運動しましょう(p38~p39)、そんなことを言っているのだが、人間の場合、5〜6歳をピークにその後は神経細胞は増えない、また40歳頃からは神経細胞は減少し始めるが、これは老化によるものだから避けられない、そう言ったんじゃないのかい、石浦大先生よ！それが運動すれば神経細胞が増えて呆け・痴呆が避けられる、だって。これって、論理矛盾以外の何ものでもありません。▼こんな論理矛盾にも気付かず、一日1万歩は歩きましょう。アホかいな。▼だいいち、下半身に障害のある人はとてもこんなこと出来ない、「そういう人は呆けるしかありませんなあ。」そうとでも仰りたいんで？▼こんなことも書いてある。「魚に多く含まれているオメガ3系多価不飽和脂肪酸(DHAやEPA)」が“頭”によいから、とにかく魚を食べましょう。これじゃあ「魚魚魚、魚を食べると、頭頭頭、頭がよくなる…」全漁連のキャンペーンソングと一緒に、この歌のとおりだと、漁師町には“天才”が溢れかえっていなければおかしいわけだが、その嘘、本当？▼お話を変わって、私はこの3月で78歳になるが、我々の育ち盛り頃は未曾有の大戦(大東亜戦争)のお陰で、まともなもの食えなかった時代。魚なんて年に一度食えたかどうか。“煮干”すらなかった。つまりΩ3系不飽和脂肪酸などとは縁のなかった時代。さぞかし頭が悪いんでありましようなあ。▼まあとにかくこんなバカなことを書いたり主張なさったりしておられるお方が、分子認知科学の権威で、アルツハイマー病やパーキンソン病などの難病の克服に邁進しておられると言うんだから、ご立派なこと。▼さて“認知症予防”が国家的にも大問題になっている昨今だが、“認知症予防”という言い方がまずよくない。“予防”の手立てをきちんと講じないと“認知症”になるよ、という“否定的暗示”を含んだ言い方だから。▼もっと前向きで行きましょう。▼こうすれば“お頭”が忽ちイキイキ働き始め、どんどんよくなっていく、そんなやり方を広く実践してもらおう、ということで、今計画しているのが“辞書の活用塾”。▼欣びに満ちた前向きの(佛教用語の“欣求”)の状態で、情報の宝庫ともいえる“辞書”を活用し、大いに知識を広め、深める、そしてそれだけでお互いの“お頭”がイキイキ状態になる、というのがそれだが、詳細は次号以降で…。

★室地聡の毒舌三昧ブログ <http://blog.livedoor.jp/jplmtms/>

「ぷらっと会議」通信

1月のぷらっと会議は、参加者が最終的に6名ということで、いささか淋しい会議となりました。参加者が少ないと、必然的に検討するテーマが少なくなり、盛り上がりがないこともあります。しかし、参加者が少ないなりに、雑談的に話が進むため、返って話しやすかったりします。むしろ参加者が多くなりすぎると、発言しにくい状況になる場合があります。プラットフォームにおける会議の質や効率は、単に人数だけに比例するのではなく、参加者のパーソナリティや他の参加者とのマッチングによっても変わっていくものです。それにしても、6人だと、会議効率としてはさほどあがらないので、やはり10名〜15名ぐらいで会議するのが望ましいですね。

さて、2月のぷらっと会議は、直前まで北欧に研修視察に行ったメンバーからの報告会を予定しています。おそらく福祉の最前線のお話が聞けるとお思いますので、メンバーを増やす意味でも、この機会に、ぷらっと会議デビューしてみませんか？ぷらっと会議の案内は、この伊賀び〜とだけでしか宣伝していないので、貴重な新メンバーを歓迎します。

次回ぷらっと会議のご案内

2月のぷらっと会議

【日時】2月16日(木) 18:30~21:00

【場所】名張市市民情報交流センターNabarie

3月のぷらっと会議

【日時】3月 6日(火) 18:30~21:00

【場所】上野ふれあいプラザ4階

防災なまの雑記帳(10)

去る12月23日、伊賀市災害ボランティア支援センター主催で、「絆〜伊賀から繋がる明日へ」という座談会を開催しました。前段で支援センターの中間活動報告をさせていただき、続いてそれぞれの皆さんの体験を話し合い、また今後の支援ビジョンについて話し合いました。昨年の震災や台風被害へのボランティア活動参加者に多数お集まりいただき、短い時間でしたが、皆様になにか得る物があれば幸いでした。ご都合のつかなかった方々にも、いずれまた継続して情報交換の機会作りができれば良いかと思えます。



さて、先日来岩手県山田町から2人の方をそれぞれ三重県にお招きし、ご講演いただく機会がありました。地元復興に活躍されているお二人ですが、改めて被災された状況のことを直接うかがい、なくされたもの、破壊された物、悲嘆の淵の奥深さを思い知った所です。しかし、方々にとっては被災地を離れこうして他地域でご活躍いただく事も、今後可能となっていく新たな絆のひとつでもあると感じました。一方通行の支援からキャッチボールの関係へ、それが明日に繋がるものだと思います。(みえ防災市民会議副議長 中村 伊英)

伊賀び〜と原稿募集!

掲載料は無料ですが、記事に関する責任は投稿者に帰属します。営利活動を目的としたり、政治活動や宗教活動を勧誘するものは掲載できません。

【募集原稿】

伊賀びと&伊賀びと衆(表紙)

ユニークな市民活動をしている個人または団体をご紹介ください。自薦・他薦を問いません。事前にインタビュー取材をします。

紙面相乗りコーナー

毎号決められたスペース(最大A5版横)に掲載します。単発のイベントやメンバー募集も掲載可能です。

コラム&コラム&コラム

市民活動に関するコラムであれば何でもOKです。800字程度を限度に受け付けます。

【原稿送り先】

〒518-0869 伊賀市上野中町2976番地1上野ふれあいプラザ3階 伊賀市社会福祉協議会

E-mail ue-vac@hanzou.or.jpまでメールか郵送で毎月20日までに送ってください。

原稿をそのまま編集しますので、必ずデータで送ってください。紙原稿はスキャナして貼り付けますのでできるだけきれいなものをお願いします。

◆発行◆ 伊賀市社会福祉協議会 ホームページ <http://www.hanzou.or.jp/archives/cat11/cat20/>

◆主な配布場所◆

伊賀市社会福祉協議会

〒518-0869 伊賀市上野中町2976-1 上野ふれあいプラザ3階

上野支所

電話:0595(21)5866 FAX:0595(26)0002 E-mail:ue-vac@hanzou.or.jp

伊賀支所

〒519-1413 伊賀市愛田513 いがまち保健福祉センター「愛の里」

島ヶ原支所

電話:0595(45)1012 FAX:0595(45)1050 E-mail:iga-vac@hanzou.or.jp

阿山支所

〒519-1711 伊賀市島ヶ原4743 島ヶ原老人福祉センター「清流」

電話:0595(59)3132 FAX:0595(59)3145 E-mail:shima-vac@hanzou.or.jp

大山田支所

〒518-1313 伊賀市馬場1128-1 阿山保健福祉センター

電話:0595(43)1854 FAX:0595(43)1577 E-mail:aya-vac@hanzou.or.jp

青山支所

〒518-1422 伊賀市平田656-1 大山田福祉センター

電話:0595(47)0780 FAX:0595(46)1165 E-mail:oo-vac@hanzou.or.jp

名張市社会福祉協議会

〒518-0226 伊賀市阿保1988-1 青山福祉センター

電話:0595(52)2999 FAX:0595(52)3555 E-mail:ao-vac@hanzou.or.jp

伊賀市市民活動支援センター

〒518-0718 名張市丸之内79 名張市総合福祉センターふれあい

電話:0595(63)1111 FAX:0595(64)3349 E-mail:volunteer@nabarishakyo.jp

名張市市民活動支援センター

〒518-0131 伊賀市ゆめが丘1-1-4 ゆめぼりすセンター内

電話:0595(22)1511 FAX:0595(22)0317 E-mail:igasksc@ict.ne.jp

伊賀市の各地区市民センターや伊賀県民センターでも配布しています。配布場所は今後も順次増やしていく予定です。

〒518-0775 名張市希中央5-19 Navarie2階 名張市市民情報交流センター内

電話:0595(63)5325 FAX:0595(63)5326 E-mail:c-center@city.nabari.mie.jp

次回の伊賀び〜とは3月1日発行予定です。